

第7回臨床に活かす動作分析を考える研究会—脳卒中片麻痺編

本研究会は、動作分析を臨床に活かすことを目的に活動しています。今回は脳卒中片麻痺患者の日常生活動作（立ち上がり、歩き始め、歩行など）を対象として、片麻痺患者が陥りやすい失敗とうまくいった時の違いについてバイオメカニクスの視点から分析した内容を各先生方から講演していただきます。またそれらをもとに、臨床的解釈や治療介入への応用をディスカッションする機会を設けたいと考えています。片麻痺患者の動作に興味のある方、動作分析を臨床に活かしたいと考えている方、これから研究したいと考えている方など、多くの方のご参加をお待ちしています。

日時：2017年11月12日(日)9:30~16:30 *受付開始：9:10

定員：80名

参加費：10,000円 *早割料金：8,000円(～10月27日24時までに申し込んだ方)

会場：国際医療福祉大学大学院東京青山キャンパス(5階、東京都港区南青山1-3-3)

テーマ：バイオメカニクスから見る動作の成功と失敗の分岐点

司会・ファシリテーター：小野 剛氏(上加茂神経リハビリテーション教育研究センター KNERC)、石井慎一郎氏(神奈川県立保健福祉大学)、山本澄子氏(国際医療福祉大学大学院)

講師：本島直之氏(中伊豆リハビリテーションセンター)、萩原章由氏(横浜市立脳卒中・神経脊椎センター)、上條史子氏(文京学院大学)、長田悠路氏(中伊豆リハビリテーションセンター)

申し込み・お問い合わせ：ホームページ(<http://rinsyho.niikasudousabunseki.club/category7/>)をご覧ください